

杉戸町立杉戸第三小学校 令和4年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価		
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等	
確かな学力	教室を学びの空間として整え「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を図ることと教員の授業力を向上させ、児童にとっても教員にとっても「魅力ある授業」を実現する。	・「教室を学びの空間に」の再確認、共通理解・共通実践の徹底 ・学習スキルの育成を意識した授業実践(相手意識と目的意識の確認・徹底) ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践 ・本時の学習課題、単元のねらいの提示の徹底(学習の見通し⇒主体的な学びへ) ・振り返りの時間の確保(深い学び) ・読解力向上に向けた校内研修の充実と授業実践 ・読解力向上に関わる基礎力、学習スキルの向上(語彙力、聴く・話す・書くスキル) ・PTA学習担当との連携、協働による取組の充実 ・読書量、読書の質の向上	・学習時の児童の姿 ・学校生活アンケート(授業・学習に関する項目)結果(児・保・教員、平均90%以上) ・総合学力調査の達成率全国比較+3ポイント以上 ※町総合振興基本計画成果指標 ・主体的な学習態度 ・授業内容の理解	B	●アンケートの結果から、授業・学習に関する項目の目標値をすべて達成することはできなかった(しかし、昨年度から向上した項目もあった) ①授業が楽しい(児91% 保93% 教100%) ②主体的な学習(児88% 保75% 教100%) ③学習の振り返り(児85% 保71% 教92%) ④授業内容を理解(児84% 保87% 教100%) △総合学力調査の達成率(全国比較)本文添付 1年…国語81.6%(73.5)算数92.1%(78.4) 2年…国語71.1%(79.9)算数68.4%(70.5) 3年…国語70.5%(68.1)算数75.0%(77.2) 4年…国語73.0%(73.0)算数78.4%(73.0) 5年…国語74.3%(70.1)算数65.7%(64.5) 6年…国語69.2%(66.3)算数73.1%(73.2) △総合学力調査(国語・算数・記述問題結果) 国語・算数と領域では2年生以外の学年が全国平均を上回った。算数・記述問題では、2年生、5年生以外の学年が全国平均を上回った。 ○RST(リーディングスキルテスト)の結果は、全体的に全国との差が小さくなった。(実施結果は違うが様々な取組の成果が表れたものととらえている。)	・児童にとって楽しい授業は、教員にとっても楽しい授業となるはずである。授業を受ける児童の視点に立った更なる教材研究の充実に努める。 ・授業での積極的な発表、表現を苦手とする児童が多数いるが、全体の前での発表にこだわらず、少人数での意見交流など多様な形態を取り入れる。その際、一人一台のタブレットを活用しての意見交流、発表についても積極的に行う。 ・町予算(低学年は保護者負担)で実施されている総合学力調査の結果を分析し、年度内に子供一人一人の苦手分野の克服に力を入れる。多忙な担任だけに任せるとなく、管理職、担任外、学習指導員等、全職員で児童一人一人の学力向上に努める。 ・読解力向上を目指して高学年が取り組んだ「よむYOMUワークシート」(読売新聞)の結果が、総合学力調査、高学年国語の結果に表れている。次年度は町内小全校全休(町予算)で取り組むことになった。時間の確保も含めて、効果的な取組となるよう考えていきたい。	B	・「積極的な発表」については、最初から主体性を求めるのは難しいので、1日とおして1回は発言できたらシールを貼っていくなど、目で見えて分かる取組を行うのはどうか。 ・ひとつの事を教えるのに、先生方はよく取り組んでいると思います。 ・児童たちの学習能力はそれだけ高まっていると思いますが、少しでも差が縮まるように指導し、子供たちに意欲が湧くように思います。 ・学習の基本的な読解力の向上に力を入れた取組がよい結果に結びついていると思う。 ・授業が楽しいとの結果は何よりも良いことだと思います。ただ、楽しい授業でありながら積極的な発表、表現を苦手とする児童が多いことが気になります。恥づかしくて発表ができないのか、授業の内容が分かっていないのか、本質的な要因は何でしょうか。授業風景を拝見できていないので紙面だけ読んだものの意見となることで申し訳ありません。読解力向上の取組についても良いと感じます。国語力の向上につながりため、今後も進めていってほしいです。 ・アンケート、保護者の意見を聴き、目標を達成しているように思います。 ・学力向上については、確かな学力が感じられた1年ではないかと思っています。先生方の指導の成果が実を結びました。また、児童は学習への意欲が向上していることだと思います。次年度以降は、学力課題が求められるポイントを抽出しながら、より効果的な指導をお願いします。今年度の結果は大いに評価できると判断します。 ・授業は子どもに理解しやすくなると思うが、やはり家庭学習も大切なので、家庭との連携を今後もしっかりと取ってほしい。 ・学校と家庭、お互いの信頼が大切。アンケートにいくつ意見されていたが、先生方の対応(特に佳見)には気を付けてほしい。良くも悪くも保護者ネットワークは影響が大きく、子供たちにも伝わってしまう。 ・児童にとって楽しい授業と教員にとって楽しい授業は違うと思うので、児童が「学び=楽しい」となるために、どのようにすればよいのか保護者(PTA学習担当など)と先生とで話してみたいかがでしょうか。	
	子供たち一人一人が主体的に学ぶための基礎力・学習スキルの育成を図る取組を推進する。		・学習時の児童の姿 ・学校生活アンケート(授業・学習に関する項目)結果 ・総合学力調査(国語・読むこと)の結果、伸び率 ・RSTの結果(6年生)	B	○アンケートの結果、学校が楽しい・教員は話を聞いてくれるに関する項目の目標値を達成することができた。 ①学校が楽しい(児93% 保99% 教100%) ②教員が話を聞く(児98% 保99% 教100%) ●あいさつに関しては、マスク着用の影響もあり、すずんが気持ちよく行える児童は少なかったが、少しずつ気持ちのよいあいさつができる児童が増えた。 △アンケートの結果から、言葉遣い・あいさつに関する項目の目標値をすべて達成することはできなかった。 ③適切な言葉遣い(児90% 保91% 教92%) ④あいさつ(児83% 保78% 教50%) ○アンケートの結果から、友だちのよさを認める項目の目標値をほぼ達成することができた。 ⑤よさを認め合う(児94% 保99% 教100%)	・学校が楽しいと感じていない児童が少数でもいる実態をしっかりと受け止めている。すべての児童が学校を楽しんでいると感じることのできる取組の充実を図る。具体的には日本の授業の実実を最優先とする。 ・適切な言葉遣いについては、学校での児童の様子からある程度できていていると感じる。しかし、児童、保護者の感覚はもう少しという結果なので、学校全体で継続した取組と共通理解を図る。 ・あいさつに関しては大きな課題と感じている。コロナ禍、マスクの影響を理由にせず、全校で気持ちのよいあいさつ力を入れる。特に高学年の意識を変えよう指導を行っている。	B	・「学校で学び、家庭でしつけ、地域で育てる」この考え方から、あいさつの重要性を感じる。 ・学校生活アンケート結果は、96%を超えていることはいへん喜ばしいことです。が、言葉遣いなどでは、児童の回答に残念な部分がありました。引き続き指導が必要と感じました。全体としては妥当と判断します。 ・あいさつができる児童がいるということですが、大人でもできない方が多いのに矛盾を感じます。あいさつをする意味、範囲を再確認してもいいかもしれません。 ・適切な言葉遣い、友だちのよさを認めるのは、三小の子供たちには良くできていると思います。コロナ禍でもあり、あいさつ後の下駄箱は履きかたも、教職員の50%の半数が気が配りませんが、基本的なあいさつの習慣を徐々に身につけていきたいです。 ・学校が楽しいと感じている児童が多いということは、学校がとても良い雰囲気なのだと思います。 ・子供たちの個性を尊重し、お互いに理解できる豊かな心を持つ児童になればと思います。 ・アンケートで「進んで発表、意見を述べているか」「あいさつ」などは、児童、保護者、教員の間の点数格差が毎年同じように見られますが、何が原因なのかをもう少し追究してみたいかがでしょうか。例えば、学年別、男女など。その中から改善のヒントも出てくるのでは。 ・挨拶は永遠の課題。教員・保護者・周囲の人が積極的に挨拶をするすることを継続していく。また、広報誌などを活用し、第三小の挨拶の取組などをアピールし、地域の人の協力を得て、学区全体で取組を行ってほしい。 ・アンケートにもあったが、豊かな心を育むには体験型の学習が必要だと思います。 ・あいさつについては、大人が良い手本を見せられればよいと思います。	
	豊かな心	児童の思いや考えを大切にしたい教育活動を推進する。特に子供たちのアイデアや意欲を引き出せるような学級経営を全校で推進する。	・児童の発達段階に応じて、児童の主体性を大切にしたい学級経営を行う。 ・特別活動、学級活動(話し合い活動)を充実させる。	・学校生活アンケート結果(学校が楽しい…児・保・教員平均95%以上) ・教員は児童の意見をよく聞いてくれる…児・保・教員平均95%以上) ・児童の観察(実態)	A	○アンケートの結果、学校が楽しい・教員は話を聞いてくれるに関する項目の目標値を達成することができた。 ①学校が楽しい(児93% 保99% 教100%) ②教員が話を聞く(児98% 保99% 教100%) ●あいさつに関しては、マスク着用の影響もあり、すずんが気持ちよく行える児童は少なかったが、少しずつ気持ちのよいあいさつができる児童が増えた。 △アンケートの結果から、言葉遣い・あいさつに関する項目の目標値をすべて達成することはできなかった。 ③適切な言葉遣い(児90% 保91% 教92%) ④あいさつ(児83% 保78% 教50%) ○アンケートの結果から、友だちのよさを認める項目の目標値をほぼ達成することができた。 ⑤よさを認め合う(児94% 保99% 教100%)	・学校が楽しいと感じていない児童が少数でもいる実態をしっかりと受け止めている。すべての児童が学校を楽しんでいると感じることのできる取組の充実を図る。具体的には日本の授業の実実を最優先とする。 ・適切な言葉遣いについては、学校での児童の様子からある程度できていていると感じる。しかし、児童、保護者の感覚はもう少しという結果なので、学校全体で継続した取組と共通理解を図る。 ・あいさつに関しては大きな課題と感じている。コロナ禍、マスクの影響を理由にせず、全校で気持ちのよいあいさつ力を入れる。特に高学年の意識を変えよう指導を行っている。	B	・「学校で学び、家庭でしつけ、地域で育てる」この考え方から、あいさつの重要性を感じる。 ・学校生活アンケート結果は、96%を超えていることはいへん喜ばしいことです。が、言葉遣いなどでは、児童の回答に残念な部分がありました。引き続き指導が必要と感じました。全体としては妥当と判断します。 ・あいさつができる児童がいるということですが、大人でもできない方が多いのに矛盾を感じます。あいさつをする意味、範囲を再確認してもいいかもしれません。 ・適切な言葉遣い、友だちのよさを認めるのは、三小の子供たちには良くできていると思います。コロナ禍でもあり、あいさつ後の下駄箱は履きかたも、教職員の50%の半数が気が配りませんが、基本的なあいさつの習慣を徐々に身につけていきたいです。 ・学校が楽しいと感じている児童が多いということは、学校がとても良い雰囲気なのだと思います。 ・子供たちの個性を尊重し、お互いに理解できる豊かな心を持つ児童になればと思います。 ・アンケートで「進んで発表、意見を述べているか」「あいさつ」などは、児童、保護者、教員の間の点数格差が毎年同じように見られますが、何が原因なのかをもう少し追究してみたいかがでしょうか。例えば、学年別、男女など。その中から改善のヒントも出てくるのでは。 ・挨拶は永遠の課題。教員・保護者・周囲の人が積極的に挨拶をするすることを継続していく。また、広報誌などを活用し、第三小の挨拶の取組などをアピールし、地域の人の協力を得て、学区全体で取組を行ってほしい。 ・アンケートにもあったが、豊かな心を育むには体験型の学習が必要だと思います。 ・あいさつについては、大人が良い手本を見せられればよいと思います。
健やかな体	コロナ禍における規則正しい生活習慣を家庭(保護者)と連携・協力して徹底して身に付けさせる。	・正しい手洗い、マスク着用、手指消毒の徹底 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の定着 ・望ましい生活習慣づくりの奨励(家庭教育宣言) ・コロナ禍における給食指導の工夫(楽しい時間への移行) ・保護者と協力した、むし歯予防と早期治療の推進	・学校生活アンケート(生活習慣に関する項目)結果(児童・保護者・教員平均95%以上) ・むし歯治療完了者率(65%以上) ・「家庭教育宣言」活用状況アンケート結果(保護者平均90%以上)	B	③コロナ禍の生活(児99% 保94% 教92%) ●むし歯の治療完了者率は、89.5%であった。 ○アンケートの結果から、「家庭教育宣言」活用に関する項目の目標値を達成することはできなかった。更なる周知の必要性を感じる。 △家庭教育宣言活用(保71%) △アンケートの結果から、体育授業、休み時間に思い切り体を動かす児童が増えてきたことがあった。 ③体育授業(児97% 保93% 教100%) ④休み時間(児78% 保81% 教83%) ○運動会等、体育的行事、体育的活動については、工夫しながらできる範囲で実施することができた。 ○年間を通して清掃時間に児童による除染作業を行うことができた。また、PTAクレーン係、お父さんボランティア、シルバー人材センターの協力で、校庭の環境整備を計画的に行うことができた。	・基本的な生活習慣については、家庭の全面協力が欠かせない。適切な情報提供と家庭との連携、協力に努める。 ・昨年度、PTA執行部にによる家庭教育宣言の見直し、周知を行ったが、各家庭への活用には結びついていない状況である。今後もPTA執行部、保護者との連携を図りながら、家庭教育宣言の周知、効果的な活用を図りたい。 ・コロナ禍の制約が緩和され、水泳指導を含めた体育の授業、体育的行事・活動の実施に努め、一定の成果を上げることができた。次年度に向けて体育の授業、体育的行事・活動の質の向上を図ってほしい。 ・休み時間の過ごし方については、体育的行事(運動会、なわとび記録会等)と関連させながら、強制ではない形で校庭で体を動かす児童を増やす取組を継続していく。	B	・私生活で体調を崩し健康の大事さは何事にも代えがたいと思いました。児童の健康はいろいろな面で活動に影響してくるの、児童の様子も気を配って過ごしたい。 ・コロナ禍の何かと制限の多い中、学校は様々な配慮をしながらも工夫して取り組んでいると思う。 ・保護者の意見に意見を聞きながら進めたい。予算の問題だと思いますが、なにか解決策がないか悩んでいてもよいかなと思います。休み時間に児童の動きが増えるのは、健康の維持増進につながると思います。 ・コロナ禍での生活は、児童も保護者の方も、そして先生方にも大変厳しい環境であったと痛感しています。マスク着用の緩和も想定されて、新ステージに入りますが、引き続き児童への温かみのある指導をお願いします。全体では妥当と判断します。 ・学校行事の合理化、簡素化、効率化を進めつつ、子供たちの心を育てるイベントは大切に続けてほしい(音楽・スポーツ・共同作業など)。 ・コロナ対策は緩和を進めながらも基本的な対策(手洗いなど)は続けてほしい。 ・最近の朝、校庭と遊びが楽しそう。校長先生だけでなく、教員たちの元気な声がいけい。	
	コロナ禍における体育的諸活動、体育授業の工夫を行うとともに、休み時間を子供たちにとって楽しい時間とする。	・一人一人の運動量を確保した体育授業の実践 ・できる限り通常の体育授業、体育的行事、諸活動の計画・実施 ・児童と共に校庭整備	・学校生活アンケート(体育の授業、休み時間の過ごし方)結果		○タブレット活用に関するアンケート結果から、児童のルールを守った活用はほぼできた。 ①タブレットの活用(児95% 保85% 教83%) ●学校におけるタブレット活用に関する情報を、保護者へ積極的に伝えるとともに、情報モラルの指導を発達段階に応じて充実させる必要がある。 △教職員自身による働き方改革の推進は、着実に進んできている。しかし、年間の超過勤務時間上限である360時間を超えてしまっている職員が15人中7人(1月末時点)となっていて、厳しい目標設定だと感じる。	・ICT活用に関する指導計画、児童の実態を反映したICT活用能力育成計画に沿って指導を進められている。 ・さらに共通理解、指導の徹底を図る。 ・タイピング検定等、文字入力の実験をしながら向上させることのできる取組を実施することができた。 ・タブレットを活用した家庭学習(音読等)が増えたことにより、家庭の持ち帰り(荷帰帰)、家庭でのタブレット使用のルール(学習に関係ないことでは使わない等)の徹底が新たな問題とってきた。児童への指導はもちろん、家庭との連携がさらに必要となってくる。丁寧な情報発信に努める。	B	・タブレット学習は基礎が大切、子供はもちろんのこと、家庭(保護者)が苦手意識を持つとよくない。 ・ICT活用は今後においても重要なので、子供たちのやる気やスキルアップに努めてほしい。 ・タブレットによる児童主体の学習は大変に意義がある必要であると思います。今後は一層よく認識させながら活用していくことが大事だと思います。 ・校内働き方改革は大変かと思いますが、業務見直しが進んで負担が軽減にならないように、また、健康面にも留意ください。全体として妥当と判断します。 ・改革なので模索中だと思います。経過報告が聞けると理解が深まると思います。 ・ここ数年で進んだタブレットを使った教育に先生方の努力を感じます。 ・デジタル化や生産性向上への理解がないまま、ICTや働き方改革を進めているような気がします。これは、学校単位で取り組んでも仕方ないかとも思います。	
学校独自	「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を目指しICT教育を推進する。	・タブレットの効果的な活用に係る研修の実施 ・タブレットの活用可能性における情報共有の充実 ・昨年度作成した情報活用能力向上計画の共通理解と共通実践	・学習時の児童の姿 ・タブレットに関するアンケート結果 ・文字入力スキルの児童の実態、スキル向上策の担任自己評価	B	○タブレット活用に関するアンケート結果から、児童のルールを守った活用はほぼできた。 ①タブレットの活用(児95% 保85% 教83%) ●学校におけるタブレット活用に関する情報を、保護者へ積極的に伝えるとともに、情報モラルの指導を発達段階に応じて充実させる必要がある。 △教職員自身による働き方改革の推進は、着実に進んできている。しかし、年間の超過勤務時間上限である360時間を超えてしまっている職員が15人中7人(1月末時点)となっていて、厳しい目標設定だと感じる。	・ICT活用に関する指導計画、児童の実態を反映したICT活用能力育成計画に沿って指導を進められている。 ・さらに共通理解、指導の徹底を図る。 ・タイピング検定等、文字入力の実験をしながら向上させることのできる取組を実施することができた。 ・タブレットを活用した家庭学習(音読等)が増えたことにより、家庭の持ち帰り(荷帰帰)、家庭でのタブレット使用のルール(学習に関係ないことでは使わない等)の徹底が新たな問題とってきた。児童への指導はもちろん、家庭との連携がさらに必要となってくる。丁寧な情報発信に努める。	B	・タブレット学習は基礎が大切、子供はもちろんのこと、家庭(保護者)が苦手意識を持つとよくない。 ・ICT活用は今後においても重要なので、子供たちのやる気やスキルアップに努めてほしい。 ・タブレットによる児童主体の学習は大変に意義がある必要であると思います。今後は一層よく認識させながら活用していくことが大事だと思います。 ・校内働き方改革は大変かと思いますが、業務見直しが進んで負担が軽減にならないように、また、健康面にも留意ください。全体として妥当と判断します。 ・改革なので模索中だと思います。経過報告が聞けると理解が深まると思います。 ・ここ数年で進んだタブレットを使った教育に先生方の努力を感じます。 ・デジタル化や生産性向上への理解がないまま、ICTや働き方改革を進めているような気がします。これは、学校単位で取り組んでも仕方ないかとも思います。	
学校独自	ボトムアップによる働き方改革を更に推進する。	・超過勤務時間年間360時間を超える職員の減少(目標5人以内) ・保護者、地域への積極的な情報提供、協力要請	・校内働き方改革推進委員会での協議 ・教職員への聞き取り、アンケート結果	B	・校内働き方改革推進委員会の協議 ・教職員への聞き取り、アンケート結果		・校内働き方改革推進委員会の協議 ・教職員への聞き取り、アンケート結果	B	・校内働き方改革推進委員会の協議 ・教職員への聞き取り、アンケート結果